

# 輝く学生生活のために

Vol.1

今回のテーマ  
長崎大学の就職支援



教育学部  
上 菌 恒太郎 教授  
Kamizono Kobtaro

みなさんこんにちは。このページでは長崎大学で行われている学生支援活動についてお知らせしていきます。

長崎大学では、大学側が長大生の皆さんに働きかけている「キャリア教育」「各種ガイダンス」などと学生主催の就職支援活動や、学生の夢を支援する「夢大賞」など、学生自ら企画し運営するプロジェクトを組み合わせ、学生支援を進めようとしています。

今回はその中でも、学生自身のスキルアップの場として利用されている「キャリア情報コーナー」と、学生自主企画による「就職支援活動」にスポットを当ててご紹介します。長崎大学で巻き起こる新しいアクションをお見逃しなく！

## キャリア情報コーナー 詳細データ

- ◎日時／  
月曜日～金曜日 9:00～21:00  
土曜日 9:00～17:00  
日曜日 休館
- ◎対象／長崎大学の学生全て
- ◎パソコン／検索用新規6台
- ◎情報雑誌／国家試験関連、就職関連、自己分析など
- ◎就職何でも相談

## 『キャリア情報コーナー』

長崎大学では、1・2年生の授業でキャリア教育科目が選択できます。ここでは、さまざまな職種の社会人の方が講師となり、多様な切り口から仕事や職種、社会についての話が展開されています。

このような授業を就職活動や自己スキルアップに発展してもらおうと設置されたのが今回の「キャリア情報コーナー」。

各学部には求人募集が集まる就職情報室が設置されていますが、それとは別にこのコーナーでは、就職活動の準備段階として必要な自己分析の資料や案内、関連する専門書などが特に充実しています。このコーナーは学生会館(談話室)の一角に新設されており、気軽に活用できるのが特長です。



就職関連の資料やキャリアアップのための書籍も随時更新



「カフェのようなスタイル」がコンセプト。明るく和やかな雰囲気を使いやすいと評判です。

留学生の

お国自慢



アラヨ・モラ・デイシー・クリスティナ さん  
ARROYO MORA DAISY CRISTINA  
長崎大学大学院 生産科学研究科

Q1 留学を決めたきっかけは？

私はよく幼い頃から家族と海に出かけていました。子どもの頃から海や魚、海岸周辺の自然に触れていたため、海洋全般に対する興味がとても強かったです。

次第に海に関わる仕事、とりわけ養殖について学び、魚を自分で育てたいと思うようになりました。そこで水産業や養殖業が盛んな日本で水産の研究をしながら、いろいろな養殖のノウハウを学びたいと思ったのがきっかけです。

中米の自然の宝庫、コスタリカ。スペイン語で「豊かな海岸」という意味を持つこの国は、東西が太平洋とカリブ海に面しています。地球上の全植物の約5%が生息していると言われるほど自然豊かで住みやすい常春の国です。デイシーさんは生まれ育ったこの国を心から愛しているそうです。

Q2

日本に来て一番驚いたことはありますか？

特に日本人の器用さと、きめ細やかさには本当に感心させられます。日本に来た時に初めて魚をかまぼこやすり身にする日本の伝統的な



## 『グループワーク体験プログラム』

去年12月、ビジネス支援プラザ（出島町）において、『グループワーク体験プログラム』が開催されました。

この企画は、本格的に就職活動を控えた学生を対象に、主にグループ討論などを体験してもらうというもの。就職活動のコンサルタントの方を招いて行われたこのプログラムは、午前と午後の部に分かれ、全部で40名ほどの学生が参加しました。



↑初めて顔を合わせる学生が、いろいろな意見を出し合い、討論を進める。

## 😊 導入が進むグループワーク

最近の就職試験の一環として注目を浴びている「グループワーク」。筆記試験や面接だけでは見えない学生の「協調性」「意見を聞く力」「発言力」「話をまとめる力」「リーダー的能力」など、さまざまな面が浮き彫りになるとあって、採用試験の早い段階で導入されるようになりまし。

そこで、少しでもゆとりを持ち、本番に挑めるよう、環境科学部4年の黒仁

田恵子さんと本多千亜樹さんの2人がこの体験プログラムを企画。

ここでは参加した学生を討論する側と、第三者の立場で観察する側とに分けて実施しました。話題も職種が限定されないよう、時事的なものを取り上げ、時間を設定し、最後に全体評価をするようにしたそうです。

## 😊 入社後に役立つ

環境科学部浜教授は、「グループワークは、その経験の数が多いほど自分のスキルアップにつながります。このスキルは入社後、上司の方や仲間と仕事を進めるうえでなくてはならない力です。複数の相手の話を理解しながら自分の意見も言えるようになること、おのずと結果もついてきますよ。」と話して下さいました。

就職はまだ先の話だと思わず、早い段階から関心を持つ事が大切です。



▲「ニートにさよなら」  
浜 民夫 編著/長崎文献社  
ニートやフリーターの現状、若者全体の状況について詳しく分析したデータやアンケートをもとに、今若者や社会がすべき事などについて分かりやすく書かれています。



環境科学部 浜 民夫教授  
Hama Tamio

【経歴】1965年労働省に入省後、長崎労働基準局長等を歴任し、1997年10月から現職。長崎県雇用ミスマッチ対策会議会長、長崎県若者自立・就業支援協議会会長、長崎県キャリア・スタート・ウィーク支援会議座長  
【専門分野】労働環境論、労働政策、労働経済、労働法

## 会 話 の ツ ポ

◎グループワーク体験プログラム主催者



環境科学部 4年  
本多 千亜樹 さん

社会人に近づく自分を  
少しずつ実感しています！

「現在、県外を中心に就職活動を始めています。何度かグループディスカッションを経験しましたが、思いをなかなかうまく言葉にできないのを実感。そこで、自分の弱点を克服し、就職活動の質を高める目的も兼ねて、今回のプログラムを企画しました。

いきなり予想もしない話題を制限時間内で討論するのはハードでしたが、他の人のするどい意見を聞けたりして、本当に良い刺激を受けましたね。就職活動中は落ち込む事もありますが、『これを乗り越えることも社会人になるための一歩だ』と思ってこれからはあきらめずがんばろうと思います。」

## 次回予告

### 「夢大賞」

平成11年に始まった「学生提案型大學生生活活性化計画(学生の夢)でキャンパスライフの活性化を図る長崎大学の取り組みをご紹介します。

技術を知りました。魚そのものの見た目を変えている器用さにも驚きましたが、食べる人の事を考えて形や味を工夫している部分が素晴らしいと感じました。  
コスタリカでは魚にこのような加工は施さず、ただ焼いて食べるのが主流です。『手間を惜しまない』という日本の伝統の受け継がれ方に驚きましたね。

### Q3

コスタリカと日本でギャップを感じる時はどんな時でしょうか？

そうですね、例えば「味の感覚の違い」でしょうか。甘いものが大好きなコスタリカ人にとってはごく普通のことですが、お米はコンデンスミルクやシナモンなどと一緒で煮て食べます。しかし、多くの日本人はこの甘さに耐えられないみたいでこちらがびっくりしました。逆に私は、最初しょうゆやごま油など日本特有の調味料の味に戸惑いましたが、今は大好きです。

### Q4

デイシーさんのこれからの目標は何ですか？

長崎大学ではさまざまな分野の専門の先生と研究ができるので、別の視点から水産についての研究を深めたいですね。  
また、実際養殖業に携わる時は、日本人の器用さや几帳面さを見習って、魚を食べてくれる人のことを常に考えながら、仕事をしていきたいと思えます。



デイシーさんとご両親



研究中のデイシーさん